

- ▼「博物館と私」
- ▼平成17年度の行事紹介…閉館記念特別展/博物館体験学習教室/その他の行事
- ▼博物館新館情報…起工式/オープンまでの動き
- ▼平成16年度の行事から…企画展/移動博物館/特別展

「博物館と私」

大学を卒業して教員となった私は、7年目で教育庁文化課へと異動になり、そこで15年間の文化財保護行政に携わったあと博物館で勤務することになった。文化課を離れるとき、口の悪い友人から「いよいよお前も博物館行きか」と慰めともヒヤカシともとれない「激励」を受けたのがついこの前のことのように思い出される。それから9年間博物館の飯を食い、平成10年、もっていた文化財保護行政の仕事にいったんUターンしてから3年前に再度博物館に戻ってきた。

文化課も博物館も、私たちの先祖が残してくれた貴重な文化遺産を保存し、後世に伝えていくことを主な業とすることから考えれば、両者の業務内容に違いはない。しかし前者と異なり、博物館は文化財を保存するだけでなく、文化財を収集し、大切に保管して次世代へ伝え、さらにそれらの資料を調査研究し、展覧会やその他の催しものなどを通じて新たな価値の創造を支えていくことを業務としている。

博物館の構成要素は、「もの・ひと・ば」である。「もの」は博物館資料、「ひと」は利用者と学芸員、「ば」は博物館という施設と、それを取り巻く環境である。博物館はまさに「もの・ひと・ば」が織り成す面白いところだといえる。そういう博物館も現在、厳しい冬の時代をむかえている。入館者の急激な低落もその一つである。その原因は、人々の価値観や興味が多様化したことに加え、博物館サイドが来館者のニーズの変化に十分に対応しきれてないからという指摘がある。私たち博物館人はこれらの指摘に十分耳を傾け、新しい博物館活動のさらなる展開をめざして大いに努力していく必要がある。



館長在職中、最後の講演となった第356回文化講座
「考古学と歴史研究～40年のフィールドワークを通して」より

ところで、博物館活動は展示のみではない。入館者の数だけが博物館の評価基準であってはならない。博物館では展示活動以外にも多種多様な事業が実施されており、いろいろな活動が展開されている。博物館の評価は、これらの博物館活動全体で考える必要がある。同時に教育的効果、満足度や感動の度合い、さらには社会的な役割等々も含めてその総和が大切であることを忘れてはならない。

私たち沖縄県立博物館では、展示活動はもとより県民のニーズに対応していろいろな活動を展開し、県民とともに創る博物館をめざしており、かつて私の友人が一種のジョークとして言っていた「博物館行き」という言葉はもはや過去のものになってきた。

沖縄県立博物館 館長
當眞 嗣一

平成17年度の行事紹介

閉館記念特別展「柳宗悦の心と眼 柳宗悦の民藝と巨匠たち」展

平成17年度をもって、新館建設による移転のため閉館することになった当博物館では、閉館記念特別展として「柳宗悦の心と眼 柳宗悦の民藝と巨匠たち」展を開催します。

柳氏は多岐にわたる活動の中で、沖縄に対し「沖縄こそ真の意味で富めるところであり、すぐれた地方文化をもつところである。沖縄県人は沖縄独自の文化に誇りを持つべきである」と述べており、この思想は今日でも沖縄の作家たちに影響を与え続けています。

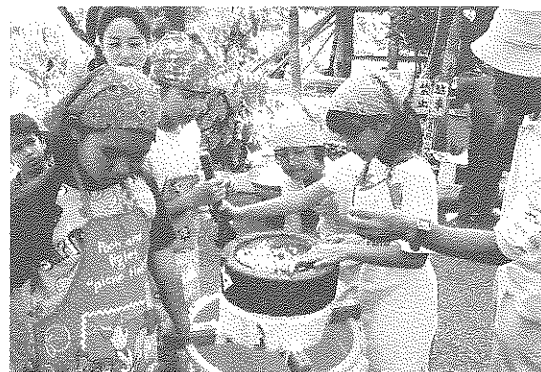
沖縄の美術工芸を多く所蔵する県立博物館が、首里の地での最後を飾るのに相応しい特別展ですので、是非多くの県民の皆さまに足をお運び頂きたいと思えます。



会期:平成18年2月14日(火)~3月12日(日)
※会期前後1週間は、展示替え期間として「休館」とさせていただきます。

博物館体験学習教室

平成5年度から始まった「博物館体験学習教室」の事業も、平成17年度で13年目を迎えます。今では、受講対象者も親子対象だけでなく、学校や社会教育団体の関係者を主体にした講座から一般の大人を対象にした講座まで受講対象の枠を拡大し、異世代が楽しく交流できるような内容の講座となっています。平成17年度は、「石うすを使って豆乳をつくり、ゆし豆腐や島豆腐をつくる講座」「パーキ等の竹の民具を製作する講座」「サメの歯や恐竜の爪などのレプリカづくり」「張り子の絵付けと鑑賞会」「ソテツや松ぼっくり等でのおもちゃづくり」「伝統的な方法でサトウキビをしぼって黒糖をつくる講座」の6講座を計画しています。



石うすを使って豆乳をつくり、ゆし豆腐や島豆腐をつくらう!

博物館体験学習教室

各講座の定員・時間・対象・参加費・お申込みに関するお問い合わせは、
沖縄県立博物館 教育普及課 (098)884-2243

その他の行事

◆企画展

- ・パネル展「博物館を知ろう」
会期:5月10日(火)
~5月22日(日)
- ・新収蔵品展
会期:7月5日(火)
~7月24日(日)

◆移動博物館

- ・渡嘉敷村開催
会期:11月25日(金)
~11月26日(土)

◆博物館シアター

(8月までのもの)

- ・5/7(土) 子ども映画館
『安寿と厨子王丸』
- ・6/11(土) 平和について考える
『沖縄戦未来への証言』
- ・6/19(日) 終戦60年特別映写会
『終戦直後の沖縄の人々』
- ・7/2(土) 映画で語り継ぐ昭和
『ホテル』
- ・8/6(土) 夏休み「子ども映画館」
『象のいない動物園』

※会場:沖縄県立博物館 講堂
上映開始時刻:10時~/14時~(2回)
入場無料・定員なし(座席数230)

◆文化講座

(11月までのもの)

- ・5/21(土)「家譜に見る絵師の世界」
- ・6/18(土)「近世琉球の社会生活史」
- ・7/16(土)「沖縄出土の輸入陶磁器」
- ・9/17(土)「空手道伝来の謎を解く
~首里手・那覇手・泊手の源流~」
- ・10/15(土)「サンゴ礁:
生物が創り出す美しい世界」
- ・11/3(木)「沖縄・博物館ものがたり」
※10時~12時に行います。

※会場:沖縄県立博物館 講堂
時間:14時~16時(野外は9時~)
入場無料・定員なし(座席数230)
(野外講座の場合は参加料・定員有り)

博物館新館情報

沖縄県立博物館新館・美術館起工式が行われました！

県立博物館新館・美術館新築工事の起工式が、平成16年11月9日、那覇市おもろまち（那覇新都心地区）の建設用地で行われ、稲嶺恵一沖縄県知事はじめ県関係者・施工業者など約200人が出席し、工事の安全を祈願しました。

博物館新館・美術館の建設事業は、老朽化・狭隘化した県立博物館を移転整備すると共に、県民の待望であった県立美術館を建設し、本県の個性豊かな独自の自然・歴史・文化・美術等に関する発信拠点をめざすものです。

稲嶺知事は「博物館新館・美術館は、県内の若い人たちにも是非見てもらい、また、国内外からの来県者にも沖縄の自然や歴史・文化を紹介する魅力ある施設とし、本県の文化・芸術の発信拠点としたい」と抱負を述べました。



沖縄県立博物館新館・美術館 オープンまでの動き

県立博物館新館・美術館の建設事業は、平成14年度に復帰30周年記念事業として決定されました。15年度には、建物と展示工事の実設計及び用地の購入を終了し、16年度9月定例県議会の承認を経て着工にこぎつけました。

今後、18年度をめどに建築工事が終了し、19年度には展示ケースの設置や模型など展示に係わる設置工事と引越作業が進められます。

博物館新館の展示は現博物館の2倍(2,600㎡)を誇り、本県の自然・歴史・文化を総合的かつ体系的に表し、より理解しやすい内容になります。また美術館では、常設展充実のための資料収集に努めており、本県の作家、およびゆかりの作家の作品を中心に、15年度末で400点余の美術品を収集しており、今後も計画的な収集が予定されています。

19年秋の開館に向けて、県民に親しまれる博物館・美術館づくりのために、当博物館は主管の文化施設建設室とともに頑張っています。



学校への対応

完全学校週5日制と新学習指導要領の全面実施により、学校等の博物館利用は増えてきています。

当博物館にも教科の学習や総合的な学習などで、県内はもちろん全国の学校からも多数の来館者が訪れています。平成16年度は142校（県内90校・県外52校）総勢12,574人の生徒が来館しました。

また博物館では、県内の小学校・中学校・高等学校・盲学校・聾学校及び養護学校に在籍する児童生徒とその引率者が、教育課程に基づく教育活動として常設展や企画展を観覧する場合には入館料を免除することができます。また、先生方の要望により、民具体験や講演会・ビデオ上映を行うこともできます。詳しくは沖縄県立博物館ホームページをご覧ください。

↓ホームページアドレス↓
<http://v1.nirai.ne.jp/oki-muse/>



沖縄県立森川養護学校の生徒13名が、進路学習の一環として博物館を利用し、展示室を見学しました。

平成16年度の行事から

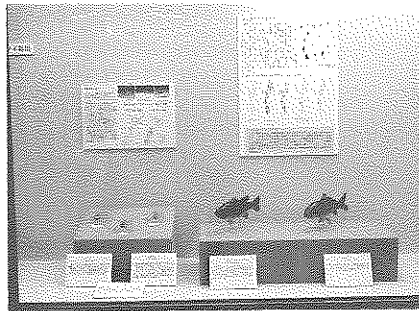
企画展 自然界のエイリアン ～海をこえて持ちこまれた動物たち～

会期：平成16年11月9日(火)～12月12日(日)

ヤンバルクイナなど沖縄在来の多くの動物が、人によって持ちこまれた外来種の影響で絶滅の危機に瀕していることはあまり知られていません。そこでこの問題を広く知っていただくことを目的に、企画展「自然界のエイリアン」を開催しました。

この展示会では、琉球列島の動物たちの特異性を複雑な地史との関わりで浮き彫りにした解説に始まり、マングースをはじめとした外来種がどのような問題を引き起こしているのかを伝えました。また、沖縄の外来種の現状を整理した小冊子を来館者や県内学校等に無料で配布しました。

本展示会で、新たな外来種を生み出さないために一人ひとりがどうすればよいのかを考えていただく契機を提供できたのではないかと思います。観覧していただいた方々には、この問題を身近な人たちにも伝えていただくことを願ってやみません。



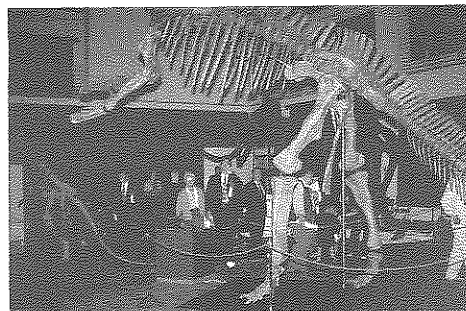
第29回移動博物館 ～北大東村～

会期：平成16年11月19日(金)～20日(土)

沖縄県立博物館では、日頃博物館を訪れる機会の少ない地域の方々に、博物館活動の一端にふれていただくため「移動博物館」を昭和54年度から毎年実施してまいりました。平成16年度は、「第29回移動博物館」を北大東村で開催しました。

開催期間は平成16年11月19日(金)、20日(土)の2日間で、北大東村スポーツセンターにて実施しました。展示会は「大むかし」の生物「沖縄の自然、歴史、くらし」の2つのコーナーで構成され、大型の恐竜骨格標本をはじめ、沖縄の自然・歴史・文化を総合的に把握できるように企画されており、約500点あまりの資料展示を行いました。

また会期中には、黒糖づくり体験、出前授業や、一般の方々を対象にして、北大東民俗資料館の活性化を図るためのボランティア養成講座なども開催しました。期間中には、のべ484人の参加がありました。



特別展

いま・むかし おもちゃ大博覧会 ～入江正彦 児童文化史コレクション～

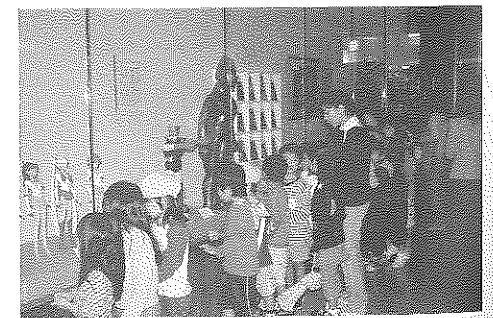
会期：平成17年2月15日(火)～3月13日(日)

去る2月15日(火)から3月13日(日)まで、特別展「いま・むかし おもちゃ大博覧会」が開催されました。本展示は、兵庫県立歴史博物館が所蔵する故入江正彦氏のコレクションを全国に広く公開し、鑑賞する機会を提供することを目的として、沖縄県立博物館と株式会社NHK九州メディスが共同で開催したものです。

入江氏が収集したコレクションは約10万点にも及び、時代も江戸時代から現代までを網羅したもので、日本の子ども文化の歴史を語る一級の資料として高く評価されています。

今回は参考展示として、琉球玩具も展示しました。また、関連催事として、特別文化講座・ワークショップ・特別ミニシアターを実施しました。

開会式当日は、近隣の幼稚園や保育所の園児も来館して式に参加し、熱心に展示を鑑賞していました。



沖縄県立博物館

〒903-0823

沖縄県那覇市首里大中町1-1

TEL (098) 884-2243 FAX (098) 886-4353

http://wl.nirai.ne.jp/oki-muse/

E-mail: oki-muse@nirai.ne.jp

◆利用案内

開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)

休館日 月曜日(祝日の場合は翌火曜日
も休館)・祝日(5/5, 11/3を除く)
・慰霊の日(6/23)・年末年始
展示替えや燻蒸などの臨時休館

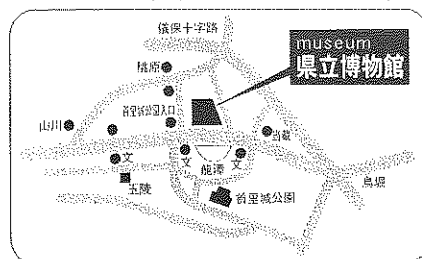
◆入館料 ※特別展についてはその都度定める

一般：210(160)円

高校生・大学生：100(80)円

小学生・中学生：50(40)円

()内は20名以上の団体料金



◆交通案内(バス・モノレール)

-那覇空港発バス-

★125番(知花首里線)で「桃原」バス停下車、徒歩10分。

-市内バス-

★1番(首里識名線)・14番(泊線)・17番(石嶺開南線)で「首里城公園入口」または「当蔵」バス停下車、徒歩3分。

★9番(小禄石嶺線)で「桃原」バス停下車、徒歩10分。

-市外バス-

★46番(糸満西原線)で「首里城公園入口」または「当蔵」バス停下車、徒歩3分。

★97番(琉大線)で「桃原」バス停下車、徒歩10分。

-モノレール-

★「儀保駅」または「首里駅」下車、徒歩10分。